



GRANDSCAPE DESIGN youth

鳥羽・伊勢・桑名 見学会 2007.6.30 - 7.1

index

1. 参加者一覧	2
2. 見学地と見学会の日程	3
3. 参加者の感想	5
4. 会計報告書	21

1 見学会参加者一覧

◆ 特別ゲスト

川村 宣元 内藤廣建築設計事務所 副所長
小野寺 康 小野寺康都市設計事務所 代表

◆ GROUNDS CAO E youth メンバー

赤井 朋子 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 沖・鼎研究室 修士2年
照井 丈大 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 修士2年
上田 嘉通 株式会社 日建設計シビル 都市基盤計画部
岡田 博史 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 景観研究室 修士2年
添田 信行 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 建設工学科 景観・デザイン研究室 修士1年
宮下 真紀子 八千代エンジニアリング 株式会社 相貌事業本部 地域計画部
福角 朋香 福井大学 工学部 建築建設工学科 都市施設計画・設計工房研究室 4年
永山 悟 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 景観研究室 修士1年
高野 裕作 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 建設工学専攻 景観・デザイン研究室 修士1年
遠藤 賢也 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 自然環境学専攻 自然環境形成学研究室 修士1年
佐々木 哲也 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 建設工学専攻 景観・デザイン研究室 修士2年
灘本 知香 株式会社 水原建築設計事務所
戎野 朗生 長谷川逸子・建築計画公房
矢野川 彩花 高知工科大学 工学部 社会システム工学科 景観・デザイン研究室 4年
宮地 ひかり 高知工科大学 工学部 社会システム工学科 景観・デザイン研究室 4年

◆ 特別参加

松崎 直紀 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 建設工学専攻 景観・デザイン研究室 修士2年
米澤 隆 名古屋工業大学大学院 工学研究科 社会工学専攻 建築・デザイン研究室 修士1年
高瀬 啓文 株式会社 日建設計 名古屋オフィス 設計部 設計室

(申し込み順)

◆ 発案・企画

< 発案 >

中村 晋一郎 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 沖・鼎研究室 修士2年

< 企画 >

村木 正幸 名古屋工業大学大学院 工学研究科 社会工学専攻 耐震・構造研究室 修士2年
大谷 友香 名古屋工業大学建築・デザイン工学科 建築構造 小野研究室 4年
手島 史恵 名古屋工業大学建築・デザイン工学科 建築計画 若山研究室 4年

2 見学地と見学会の日程



伊勢 -ise- 伊勢神宮内宮&外宮



鳥羽 -toba- 海辺のプロムナード&海の博物館



7.1 (Sun)

- 7:30 ホテルロビー集合
- 8:08 伊勢市駅発
↓ JR 参宮線で鳥羽へ
- 8:24 鳥羽駅着
海辺のプロムナード見学
- 9:20
↓ バスで海の博物館へ
- 10:00
海の博物館見学
- 12:00
↓ タクシーで鳥羽駅へ
- 12:47 鳥羽駅発
↓ JR 快速みえ号で桑名へ
- 14:17 桑名駅着
↓ 徒歩で住吉入り江へ
- 15:00
住吉入り江見学
- 15:50
六華苑見学
- 16:45
↓ 徒歩で七里の渡し、
外堀通りを通過って桑名駅へ
- 18:30 桑名駅発
↓ JR 関西本線で名古屋へ
- 19:05 名古屋駅着 一端解散
- 19:30 懇親会開始
- 21:30 懇親会終了 解散

6.30 (Sat)

- 10:30 名古屋駅 JR セントラルタワーズ集合
- 11:30 名古屋駅発
↓ JR 快速みえ号で伊勢へ
- 12:56 伊勢市駅着
↓ 徒歩で伊勢神宮 外宮へ
- 13:10
伊勢神宮 外宮見学
- 14:00
↓ タクシーで伊勢神宮内宮へ
- 14:30
伊勢神宮 内宮見学
- 16:00
↓ タクシーで伊勢シティホテルへ
- 16:30 ホテルチェックイン
- 17:00 グループディスカッション
- 19:30 懇親会 開始
- 22:00 ホテル着 解散

桑名 -Kuwana- 住吉入り江&六華苑



3

参加者の感想

(順不動)



10:30 名古屋駅集合



13:10 伊勢神宮 外宮見学



宮地 ひかり

今回の見学会はGSDyに入って初めての参加でしたが、行って本当によかったと思います。他の大学や社会人の方から、今思っていることややりたいこと等、自分の励みになるお話をたくさん聞くことが出来ました。見学地では設計者の方から直に、具体的な設計やプロジェクトの中身について知ることが出来ました。

私が一番印象に残っているのは住吉の入り江です。実際に景観デザインに関わっている小野寺さんが、地元の住民たちとのやりとりや、完成後の問題や失敗まで隠さず話して下さい、景観デザインの難しさについて考えさせられた場所でした。

大規模なプロジェクトでなくても、景観は公共のもので、景観デザインはそこに住む人たちがそこを訪れる人たち全員のために行うのだから、地域の協力がなくては出来ない仕事だと実感しました。地域の人にとって必要とされる、自分でも納得のいくものを造っていかねばならないと思いました。でもだからこそ、やりがいのある分野だと思っています。今回の見学会でそれを再確認することが出来ました。ありがとうございました。

灘本 知香

テーマやスケールの違うデザインを見学できて楽しかったです。海の博物館 - 今回2度目の訪問。分棟になっている理由や、海に開くような大きな開口がない理由を知れた。海辺のプロムナード - すっきりとしたデザイン。住吉入江 - 比べて素材感のあるレンガが使われていて、印象に残る。事業主の方とどんなやりとりがなされて、住吉入江という場所ができたか知れた。

10:30

佐々木 哲哉

本人にもあまり自覚がないですが、私にとってはGSDyに加盟しての初参加のイベントでした。スムーズに進められるスケジュール、丁寧に整えられた配布資料などに感心しきりで、これを見習って、研究室の活動に活かそうかとも思いましたが、私はもうM2なので手遅れです。これは優秀な後輩達に期待することになります。

大先輩方の教えを頂きながらの旅は新鮮でした。学生の自分がいかに物事を知らないか、ということを変更して痛感したのは私だけではないと思います。ただ、そのことで我が身を正す以上に、なんだか将来の私達への憧れを覚えました。揖斐川の護岸で小野寺先生を囲みながら、10年後にはこの仲間がどんなスペシャリスト集団になっているんだろうと想像して、一人ニヤニヤしてたことをここで告白します。もし同じような見学会が開かれたとしたら、お互いが訊いたり、答えたりできるようになるのでしょうか(あるいはマニアックに言い争いあえるようになれば、もうユースの集まりではないのかもしれませんが) そんな日を楽しみにしています。そのために、まずは自分が成長しなければ!

最後に、幹事の皆様、特に村木君を始めとした名工大の皆様にご挨拶いたします。ありがとうございました。短いですが、この辺で。

矢野川 彩香

いつのも感覚で、「行ってみたいなあ」と思ったから気軽に参加してみたこの旅。それが今では、とてもかけがえのない経験となったほど、人生の中で重要な旅になった。

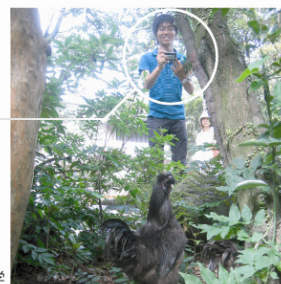
鳥羽や桑名では、実際に設計にあたった方々の説明を受けながら見学することができました。これは、私のような辺鄙な土地に住む学生にとっては、参加できるだけでも貴重な経験であり、とても勉強になった。

しかし、なんといっても色んな人との交流がとても刺激的で新たな発見の連続であった。同学年から院生、社会人に至るまで、本当に色んな人と色んなことを話し合うことができた。

景観・建築のこと、働くということ、学ぶということ、高知のこと・・・。大学とか学生だからとか全く関係なく、本気で語り合っ、今までいかに自分が高知工科大や高知という枠内でしか物事を見ていなかったのかということに気付かされたし、例え違う考えを持っていたとしても、お互いがそれを認め合っ、受け入れているという姿勢が自然にできていることとか、“あたりまえ”であることをできていなかった自分や、学内での周りの雰囲気や気付くこともできた。

上手く表現することができないけど、この旅は本当に色んな意味で勉強になった旅となった。

最後になりましたが、村木さんをはじめとした幹事の方々、直前の参加にもかかわらず、大変お世話になりました。おつかれさまでした!! 楽しかったです!!



14:30 伊勢神宮 内宮見学



グループ ディスカッション 16:30



添田 信行



19:30

懇親会開始

今回の旅で非常に良かったのは、その場所を設計した本人から話を聞かせていただける点とこれから形は違えどそのような仕事にかかわっていく同世代のひととの生の意見交換ができることにあるのだと思います。その中でも小野寺さんとは住吉入り江のことだけでなく、桑名と一緒に歩いていただき、小野寺さんの関わっていない場所についての意見も聞けたことはさらに良かったです。

また、設計者のいない場所では、自由参加にしたことで、それぞれの人がそれぞれ好きな場所に行き、好きに時間を過ごしているのを旅行中にも聞けるし、このような報告書という形で見えるというのも良いところであると思います。

このように、短い時間の見学会ではありませんが普通の時間よりも何倍も楽しめ、何倍も勉強になりました。企画者の方々、川村さん、小野寺さん、見学会に参加していたみなさん、本当にありがとうございました。



永山 悟

旅行というのは基本的に楽しいものです。1人で行って、友達と行って。

今回の見学会は初対面の人、もしくはそれに近い人がたくさんいました。同じGSDyのメンバーと言っても、普段はなかなか親しくなることはできませんが(特に私は)、いかんせん楽しい楽しい旅行の場ということで、ほぼすべての人達と親しくなることができました。

それぞれの見学先で得た設計等に関する知識も大変有意義なものでしたが、多くの人達と仲良くなれたことは、分野間を越えた人脈ネットワークを形成することが目的の1つであるGSDyの活動として、大成功だった証拠と言えるでしょう。

企画者・運営者の皆様、お疲れさまです。そしてありがとう！



一日目終了

GSDyに入って初めての団体旅行。

まだワークショップに参加していない私としては、今回の旅行は団体自体を実感として理解するにも、たくさんの人と解けこむにも、純粋に建築・土木の空間を感じるにも、色んな意味でとても楽しみでした。実際に2泊3日という短い期間ではあったのですが、全国から集まった仲間たちが、同じ空間を感じ、それについて議論し、またそれぞれが感じとった何かを全国各地に持っていくという素敵な機会にこうして福井から参加することができて嬉しかったです。

具体的な感想として、まずは伊勢神宮。三重県出身でありながら、今回で2回目。もちろん寺社建築として、伊勢神宮を見ても圧倒される所は多いのですが、前回行った時よりも目についたのが五十鈴川です。おかげ横丁から少しぬけて、川沿いの道にでた眺めは最高でした。そこにある素敵な川の流れと、川沿いの町並み、そしてそこで生活する人の連携がすごく美しかったです。風景と人の共存、というのをとても実感しました。

次に海の博物館。今回が初めての体験。三重県に建ててくれてありがとう。という感じでした。(笑)近代建築なのに、歴史的な建物からしか感じるできない様な不思議な感覚がありました。ただの学生ながら、こんな空間を作ることができる内藤先生や、内藤事務所の方が羨ましかったです。さらに川村さんによる細かな説明で、良い建物を作るだけじゃなくて、そこに携わるたくさんの人たちのエネルギーが伝わってきて、とても素敵なひと時を感じることができました。ありがとうございました。今度また1人でゆっくり来てみたいな、と思います。

最後に桑名の住吉の入り江。恥ずかしながら、土木を実際にあれほどじっくりみ

た事がなかったので、とても新鮮な気分でした。しかも、事業に関する質問がたくさん小野寺さんに向けられたのもあって、普段聞けないようなお話をたくさんしていただいて、良い経験になりました。土木を見る！と意気込んで見ても、橋や堤防等、スケールも大きくて構えてしまいそうになるけれども、実際はそうじゃなくて、普段自分が何気なく行き来している歩道や街灯、そんな身近なものたちから、もっと見つめてみよう、と思いました。

最後に、この旅を通して改めて感じたことは、小さな感動や幸せを誰かに伝えることができる空間づくりに私も携わりたいな、と思いました。

長々と書きましたが、また次にみなさんと議論できることを楽しみにしています。

川村さん、小野寺さん、そして企画者のみなさんありがとうございました。

福角 朋香

7:30 ホテルロビー集合



鳥羽海辺の
8:24 プロムナード見学



10:00 海の博物館見学



一日目からハードでした。夜行バス内ではあまり眠れず、しかもバスから降りた瞬間ですでに太陽が燦々と輝いていました。せっかく傘持ってきたのに。結局使ったのは最終日の3分だけという有様。しかも日差しがきつく、ジーンズが辛い。麦わら帽子(?)の岡田さんがうらやましく思いました。東大グループは漫喫に行くということで、一人朝食&散策に。おしゃれなカフェで朝食と歯磨き、顔も洗わせてもらい、いざ名古屋市内。EDAW 設計のOASIS21を見て、名古屋城に行きました。内装の酷さにゲンナリしました。結局全部で2時間近く歩いた気がします。集合時にすでに疲れているという感じでこの先不安に思いました。

伊勢までの電車内では今年の夏に行く中国でのワークショップの情報を聞いていたら、いつの間にか到着。灘本さんありがとうございます。伊勢神宮はよかったです。管理が行き届いた杉林、楠の巨木。木好きにはたまらない空間でした。歩くのが遅くマイペースなので、一人で回る時間が多かったのですが、その分余計に楽しむことができた気がします。ディスカッション・懇親会はとても楽しかったです。そのとき撮った写真を見るといい感じになった皆様の様子が分かります。僕はすぐ寝ましたが、朝市に行かれた方はお疲れ様です。ただ朝食が残ってしまったのがもったいないと思いました。

長くなってきたので、二日目は海の博物館・住吉の入り江について書きます。

海の博物館は今まで見てきた中で最高の建築のひとつになりました。パブルな時期、特に地方では土地や文化に根付かない奇怪な建築・建設事業が多く行われたと思います。ここは斬新なうえに周囲の景観にもマッチしていて、なおかつ伝統工法を用いているということで、とても興味深かったです。

住吉の入り江では詳しい設計経緯、素材、葛藤を伺うことができました。造園と土木の違いがちょっと分かった気がします。一流のデザイナーと市の担当者とは、デザインの質がこんなにも違うのかと驚きました。

全体を通しての感想ですが、まだまだ設計・デザインに関する知識は少なく、的確に批評する力が足りないのですが、このような巡検を通していろいろなものを見、みなさんと一緒に議論する中で磨いていきたいところです。その点、普段聞くことのできない設計のディテールまで知ることができたので、とても有意義な巡検でした。川村さん、小野寺さんのように、設計に携わった方々をお呼びできるのは、GSの一番の特権だと思います。また、その要求に応じてくださる先生方に感謝します。

最後に巡検の企画・手配・引率をしてくださった幹事の皆様、ありがとうございました。

照井 文大

あっという間の2日間でした。その2日間までの準備に要した期間、想像以上の苦勞があったと思います。

企画・準備してくれた村木君、大谷さん、手島さんに心から感謝です。

今年から youth のメンバーとなり期待と不安を抱えたまま、この企画に参加させていただきました。感想ということで、感じたものやことを書くべきですが、あまりにこの1泊と2日の経験が私にとって大きなものとなってしまい、1週間以上たった今でも言葉として吐き出すことができません。

ただ楽しむ旅行ではなく、すべての人が何らかの考えや気持ちでもってその場所に集まったのだと思います。同じものを見ながらもまったく別の考えの人が隣にいる。当たり前なことだけど、そのことがよりいっそう大切なものとして身にしみる経験でした。

いろんな人と話すことで見えてきたのは自分の未熟さ、経験不足、視野の狭さ…。言葉にして自分の考えを伝えようとすると、同時に自分の考えの数%も伝えきれていないと感じてしまう自分がいました。舌巻のなさ、考えの甘さ…さまざまなものがこの旅の間に露呈し、たくさんの課題を残しました。

これほど摩擦係数の大きい集まりはどこにもないと思います。この会を通じて、擦られて、削られて、それでも最後に残る何かを見つめていきたいと思っています。

上田 嘉通

海の博物館は、視点が引くほど引き立って見える。内藤さんの建築は周辺の風景と一体となったときに初めてそのデザインの意図が見える気がする。建築も人間と同じで、1人で生きてもつまらないということだろうか。そういう意味では、内藤さんが都心に建築をつくるとしたら、どんなものになるだろうか。とても気になる。

住吉入り江では、その効果が周辺に浸透していないことが気になった。境川では少しずつ河川整備の影響が周辺の建物に及んでいるのに対し、住吉入り江はそんなことがない。デザインの質以前に、デザインそのものが住民に望まれていないということか。今後、内藤さんが駅舎を、小野寺さんが駅広を計画するというが、どのようなプロセスで、どのように取り組んでいくのか、非常に興味がある。

赤井 朋子

伊勢神宮は最近ずっと行きたいと思っていたので、とても楽しみでした。GSの見学会ではただの観光以上の知識を聞きながら、見て回れるので普通の旅行よりもずっと楽しいと思います。

伊勢は、何度も訪れた方もいるからか、全体で説明を受けながら回るといったことはなかったのですが、それでもちょこちょこいろいろな知識をいろんな人に聞くことが出来てよかったです。

翌日の午前中、海の博物館では、前夜の影響で体調が万全ではなく、惜しいことをしました。その後順調に回復し、桑名で小野寺さんの説明を聞きながら見学をして、こうして設計者の説明を受けながら見学するのはとても贅沢なことだなあと思うようになりました。本や写真集、講演などの公式な所では多分知ることが出来ないような話も沢山していただけて、耳学問というか、face to face たっぷり大事だと感じました。どうもありがとうございました。



12:47

鳥羽駅発



14:17 桑名駅着



15:00 住吉入り江見学



伊勢神宮では、宇治橋の手前から鳥居の向こうに山が連なる眺めと、五十鈴川御手洗場がとてもよかった。川を渡り、手を洗い、段を登り、道を曲がり、一つ一つ関門をくぐるようにして正宮に近づいていく。そんなことはいちいち意識はしないけれど、身体のごどこかで感じ取っているのだと思う。五十鈴川御手洗場は、こんなに「意味」のある川辺を私は初めて見た。神宮自体が外と全く隔離された空間だけれど、その内側でこの御手洗場はもう一段階隔離されている。川に下がって行って手を洗う、という動作をすることで、神様に会いに行く気持ちがつくられる。普通の神社の御手洗場でもそういう気分にはなるけれど、下がっていくこと、流れていること、囲われていることが重なって、より自分の心を洗うことができるのかもしれない。

翌朝、おかげ横丁の朝市に行った。朔日餅は千人待ち。午前五時なのにとんでもない数の人が橋と川辺に列をつくっていた。串に刺さった塩もみきゅうりとみたらし団子がおいしかった。観光と地域が見事に一体化している。こういう場所が残っていることは、奇跡に近いと思う。楽しくて仕方なかった。やっぱり街が好きなんだ、と思った。

鳥羽水辺のプロムナードでは、部分部分がいちいち繊細で、スレンダーなデザインの押し付けに、居心地の悪さを隠せなかった。鳥羽に芝生のマウンドがどうマッチするのか？ 対象地からデザインの素（コンテキスト）を拾い上げられない場所で空間を作り出すのは難しいんだろうなあ。とはいえ、手すりの素材感や全体のシックな色使いはさすが、と思った。

海の博物館については建築の難しさに途中で「勉強する・考える」ことを放棄してしまった。それでもあの空間に身を置くことは心地よかった。たぶん、上質で単純な素材（木や打ち放しコンクリート、さらには外の空間の砂利や空も含めて）で囲われた空間をつくるのがとてもうまいのだと思う。

帰りがけに「内藤さんの建築はよく分からないけど満たされた気分になる」と、つぶやいていたら、たまたま聞いていた川村さんに「そりゃどうも」と言われた。ちょっと恥ずかしかった。

桑名の住吉入江は、先入観としては「なんでレンガじゃないといけないのか」と思っていた。見てみると、思いのほか良かった。良かった、なんていうと感覚的だけど、綺麗につくりきれていない鉄釘や、レンガ護岸の使い込まれた風合いに人間味を感じたのだと思う。シークエンス景観マニアとしては、ゲーッとカーブした掘割の向こうに立派なお屋敷とレンガ造りの蔵、というのもいい景観体験だった。昔から残る立派な桜の木が立つ盛土も良かった。時代の積み重ねを感じる空間を創れたのなら、やってよかったのだらうと思う。一方で色使いについては納得のいかない部分が多かった。紫寄りのレンガ色に黄味の強いベージュは合わない。

土木・都市の空間づくりに大切なことは、場所を読むこと、素材を吟味すること、施工に責任を持つこと、そして人がいて、景色が生きていること。多少設計が格好悪くても、肌なじみが良く、人が活き活きとしている場所は気に入ってしまうものだと思う。

「デザインした」ことを感じない空間のなかに、ちょっとした遊び心が隠されていたりすると、すごくいい。そんなまちづくりがしたい。



15:50 六華苑見学

高野 祐作

ここ最近はどこに行っても専門的な目であらゆるものを見ていますが、同じような興味を持った人たちとそこで見たものに関する話題を共有しながらいろいろなものを見学することができて楽しかったです。このような体験は普通の一般人と旅行してはできないでしょうし、観望を買うのが常ですから…（苦笑）あと、飲み会を通じて色々なところから集まった人々とぎっくばらんに話せて、これが実は大きな収穫だったような気がしています。「景観」というフィールドにいてもそれぞれが違う問題意識を持っていて、いつも同じ研究室の中で話していても気づかない（話題にならない）ようなことに気づかされました。



松崎 直紀

2日間お疲れ様でした。感想としましては『楽しく充実した日々』の一言に尽きますね。慣れない移動についても幹事の方々のスムーズな案内は素晴らしく、そして詳しい資料についても事前に知識も植えつけることが出来てよかったと思います。自分は去年の九州のシャレットに参加したのですが、全国津々浦々の学生が一同に集まって旅行気分にも浸りつついろいろな街の面白いところを共有するのは大変面白いです。

課題としては学生どうしの交流を深めていくためのイベントをどうしていくべきか、ということでしょうか。事前に参加者の自己紹介冊子等を作成したり、研究室紹介をするなど、住んでいる地域や研究の視点は違えど同じ学生や同志として、せっかくの交流をもっと濃密にしていくことを今回の楽しい日々をきっかけによりよくしていく姿勢を持つことが大事だなと思いました。

生意気に意見を言ってしまうすみません。でも本当にこの企画は素晴らしかったですし、今後もっとたくさんいろいろところで企画されると嬉しいです。

遅くなりましたが、特別参加として今回非会員の私を受け入れてくださった企画者の皆様には大変感謝しております。どうもありがとうございました。またどこかでお会いできる日を楽しみにしています。

16:45 外堀通り見学



19:30 懇親会開始



21:30 全日程終了

折角なので感想を書き留めておこうと思う。僕個人の今回の旅のテーマは変わるものと変わらないもの。はじめに表わら帽子は大正解であったとだけ言っておこう。

名古屋で集合した僕は簡単な自己紹介をしたあと、電車で伊勢へと向かった。夜行バスでへろへろの東京組は寝不足で幾分元気がなかったが、それはともかく宿に荷物を置き、まずは外宮に向かった。

今年は喪中なので神宮の中に入れない僕は外宮の横にある池のほとりでぼーっと前日のゼミで言われたことを反芻して論文の構成をメモしたりしていた。そのベンチに一人のおじいさんが座って話しかけて来た。何を隠そうみんなが外宮の中を見ている一時間程度の間中、僕はそのおじいさんとお話して（拘束されて？）いたのだ。その人はすぐ近くに住んでいて毎日お参りに来るのだと言う。来ないとなんだか落ち着かないのだそうだ。

そのおじいさんはもう大分ぼけていて、四回も同じ話をされたのですっかり覚えてしまったのだが、愛知県出身で実家は何か商売をしていたのだが、四人兄弟の末っ子で家は長男が継いだので自分は税理士になって、東京などにも転動したが最終的に伊勢に落ち着けることになり、いろいろ頭を下げて伊勢に終の住処を構えた。現在長男夫婦と一緒に外宮の近くに住んでいて（住所は覚えていないそう）残りの子供二人は東京に家を構えて孫が時々遊びにくるのだそうだ。「あなたはどこからですか?」「東京です。」「今日はどちらに泊まるのですか?」「シティホテルです」「明日はどこに行くのですか?」「鳥羽です」という会話も五回くらいしたように思う。我ながら根気強く相手をしていたのだが、もう一日いるなら泊まって行きなさいと言われて、下手をすると砂の女よろしくずっとそのループに入り込みそうで、バスの時間が迫ったので礼を言ってお別れを離れた。

殆ど同じ会話を四回もしたのだ。一回さらっと言われただけではここまで記憶に定着しなかっただろうと思う。まるで式年遷宮みたいだ。と思った。文化が同じ形で受け継がれて行き反復される。でもだからその分定着する。反復は定着である。時間がぐるぐるしていた。

内宮へバスで移動した僕は鳥居の前でべたな集合写真をとり、しばし解散した。

僕は中村と二人でタクシープールの裏に打ちひしがれている橋の神様（実は橋に垂直な軸上にある）にお参りをしたあと、おかげ横丁の脇、五十鈴川沿いの床で鮎をかじりつつビールを飲んでた。

川で遊ぶ子供達。川沿いに並んで腰掛けるカップル。子供が二人走って来てお父さんに川に入ってよいかとお願いしている。対岸にうっそうと茂った緑が壁のようにそそり

立つ。川の真ん中にある大きな岩の上で子供達が何人も甲羅干しをしている。なんだかすごく安心できるスケールで困まれ感がある。昔から暑い日はこんな風に川に集っていたのかな。兎に角、夏の陽射しの下でのビールは最高だった。

殆どの人の伊勢体験は外宮と内宮の内部を歩いた記憶に偏っているのではないと思う。だが伊勢の町には神様だとか日本国だとかいった難しい話以前の人々の生活の原型が未だに存在しているように思われた。

伊勢神宮見学後にホテルの会議室で設けられた議論の場では初対面の人が多いにも関わらず（意外にも）活発な意見交換がなされた。ユースメンバーの中できちんと議論をリード出来る人が大分増えて来たように思う。ワークショップ効果かな。小野寺さんが地元の人懐に入り込んで本音を聞き出すことが大事だ、とおっしゃっていたがそういう能力は普段はなかなか開発できない。貴重な機会であった。懐に入るという意味では、懇親会場の居酒屋「とらさん」での懇親会でポテンシャルを如何無く発揮された方もいらっしやった。神前の結婚宣誓も行われた。おめでとう。

僕が持って来た線香花火は少ししかなかったのですが終ってしまったけど、その儚さがなんとも言えないわけで。やはり伊勢にロケット花火は似合わない。しづしづ持ち帰った次第である。

さて、おかげ横丁では毎月一日をはじめ何回か朝市があるそうだ。赤福には一日もち（毎月一日の限定販売）というのがあり伊勢の人はそれを毎月買いに行くのだという。そしてその中でも土日が重なる七月一日は一年で一番人が集る日なのだという。

朝市は3時半にはじまる。昔は日が昇っている間に行動したから日が昇る少し前から準備をして、という時間が3時半ごろなのだろう。残念ながら僕自身は前日3時過ぎまで語りちらかしていたので不覚にも参加できなかったが、幸運にも朝早起きした健康な六人の話によれば、町のタクシーはほぼ予約でいっぱい、おかげ横丁の赤福から五十鈴川の橋を渡り川辺迄人がずらっと並んでいるという普段では滅多に見ることのできない風景が広がっていたそうだ。

次の日、伊勢から鳥羽に移動し、まずはかまめのプロムナードを見学した。実は川村さんは前日同じホテルに宿泊されていたそうで、前日の懇親会にお呼びすれば良かったものの大変申し訳ないことをしてしまった。この場を借りてお詫びしたい。

バスに揺られること三十分。海の博物館のバス停に到着。坂を歩いて降りるがなかなか本体が現れない。いよいよ次の角で現れるというところに幹事の村木が走って来て川村

さんが来ているから早く来いという。

早速川村さんに海の博物館についてプレゼンして頂く。話は断層と台風、津波の話から始まる。接地性という環境計画のコンセプト、道路の考え方と石垣の配置、平面計画の原則のスタディ、造成計画、内藤さんがサーベイしたという高知の集落のコンセプト図、敷地から半島全体の断面構成図、地形図上の配置図。気候、地震、海浜、台風、津波、塩害という自然条件と機能、耐久性、面積、コスト、法律という社会条件のせめぎ合いについて。車で運べる最大の寸法で出来たPCのピースを直径32ミリのストランドで縫う。PC型枠は鉄で作るが、百回くらい使うとコストが一番安いこと。蔵の構法である置屋根を使用し熱輻射をカットすること。虫のつかない杉材の吸湿作用。瓦は裏側に水が5~10%まわりこむ。それがスムーズに流れるような仕掛け。大工さんの木の削りとし口のスケッチ。などについて説明して頂いた。

そして収蔵庫へ向かう。雨を受けるための石組み。瓦にドーマンという海女のお守りの意匠をあしらっている。収蔵庫内部の空気はひんやりと冷たい。漆喰の気持ちいい白さが塗り回してある。外気が内部に入ってくる為の石の層。それを可視化する硝子の意匠。土間を触るとしっとり水分を含んでいる。湿度、温度はほぼ安定してきたという。まるで自然の冷蔵庫のようだ。ガイドに沿って杉板を落とし込んで行ってすきまをなくすこと。空気が最高の断熱層になること。ストランドの端のディテール、ピース毎のつなぎ目。たんにゴンの臭いが神棚を並べた收藏品とあいまって不思議な世界観を醸し出していた。

前にも思ったことがあるが、内藤さんの建築は人がわからしている、より建築が引き立つ。建築が前に出るのではなくて人々の活動の舞台をつくっている。最後にみなで石の階段に群がって集合写真を撮ったが、集落のワンシーンのような感じ。海側へ坂をおりる皆の背中がうきうきしている。最後は散髪したてでさっぱり顔の館長さんにもお会いし、タクシーで鳥羽へ戻った。

車内でサバ寿司とハマチ寿司の豪華な昼食を済まし、桑名駅着。駅前から大通りを進み国道一号を越えいよいよ住吉入江である。井戸と竹の意匠について。岸の線形のコントロールが難しかったこと。煉瓦の角を落とすすぎたこと。その煉瓦を縦にならべた意匠。周りの生け垣はいつでもお店をやって下さいねということ。錆びない鋼管ポールの合間合間に錆びた鉄釘が目立つ。鉄釘の肌合いを見せたくて錆び止め処理をしていないのではないかとこの疑問。ポラードの塗りが甘くて黒いまだら模様になっている。後で作った照明柱はジョイントが粗い。手すりのジョイントを見て南雲さんが泣いたこと。笠石を用いないトップの処理

について。小野寺さんはうまくいったところだけでなく、悪い所、うまくいっていないところも全部説明してくれる。自分の作品にすごく客観的である。

桑名から伊勢まで自分の土地で歩けたという諸戸邸で休憩し、東海道の渡しである七里の渡しへ向かう。伊勢神宮のご神木が一泊休んで行く場所だという。舗装材をこれは中国の御蔭、これほどこのだろう。とひとつひとつ説明してくれる。日本の石畳と西洋の舗装技術の違い。日本は進行方向に縦に並べるが西洋は横に並べること。日本のみちである東海道を舗装に関する曇り空講義。なんて贅沢な旅だろう。外堀公園を通って駅に戻る。内堀から引いている水はお世辞にも美しくない。建物の壁に描かれた建物の壁画。趣味で描いてくれたらしい。

必ずしもうまくいってないんだよね、と現状をさらけ出してくれた小野寺さんに感謝したい。内藤さんの桑名駅が出来て、駅前広場が整備されればもっと良くなるという。その時にもう一度訪ねてみたい場所である。

海の博物館は内藤さんの原点、住吉入江は小野寺さんたちのプロジェクトの原点。変わるものと変わらないものについて考えるいい機会になったと思う。

追記

実は最後解散した後、僕、中村、照井、永山の東京バス待ち組と、大谷、福隅の6人でミッドスクエア?の41階にあるお洒落なバーに行った。まずはエレベーターで大興奮。もう一度上にあがって降りて来よう!!などはしゃいでしまった。

壁には水が伝って部屋中の鏡にちらちらと反射し、照明はほの暗く、なんとも大人な雰囲気のあるバー。お姉さん二人とおかまと思しきおじさんの3人組がエッチについて熱く語っている横で、オールバックの店員さんがシェーカーから次いでくれたオリジナルカクテルなどをしっぽり飲みつつ、名古屋の夜景を眺めつつ、旅の余韻を楽しんだのでありました。それにしてもミッドスクエア薄っぺらいね。

幹事の村木君どうもお疲れさまでした。とてもいい旅行ができたと思います。

これからもユースで東京以外発のイベントがもっと立ち上がることを期待しています。



先日行われた鳥羽伊勢見学会の感想を述べさせていただけ。今回の企画は「GSDyの成長をまざまざと見せ付けられた」、ということをまずは全体の感想として述べておきたい。企画者である名古屋組の企画力、参加者の議論の内容、そして新しい風をGSDyに運んでくる新メンバーの勢い。どれをとっても、成長の兆しが見られた。

「東京か地方か」から「個人かチームか」へ

今回はGSDy発足以来はじめて地方メンバーが中心となって企画したイベントであることが、このイベントを語る上での一番の特徴である。私は企画段階からの見学会に携わせてもらったが、企画当初から名古屋組の勢いに圧倒されっぱなしであった。特に、村木君の責任感と行動力は境川のときの井上氏と重なる部分があった。(今回心底感じたが、最初のイベントで井上氏がGSDyのハードルを高めてくれたことが、今となって大変な影響をGSDyにあたえている。これについては後で述べる)今回、結果として大成功に終わったことは、企画が「地方でも出来る」ことを明らかにした。裏を返せば、もう既に東京>地方という構図は、少なくとも僕らGSDyにおいてはなんら意味を成さないものであることが確認できたといつてよい。むしろ、場所的な違いは個人と個人のつながりでどのようにでもなるのだ。そういった意味で、これまでGSDyが取ってきたスタンス、特にGSDy名簿で明らかかな、顔の見える組織を作ることが更なる成長に繋がると思う。(皆さん、冊子用データちゃんと送ってね。)だが、あえて苦言を呈するとすれば、まだ、個人の努力によって企画が成り立っている部分が多い。前回の島根見学会の島津君、今回の村木君という個人が奮起しなかったらこれらイベントの実現はなかった。これは、そのような個人が現れなかったら企画はできないということであり、また、ある個人にしか企画ができないということになる。今後面白い有意義なイベントを続けるために、個人の努力によらない、少なくともチーム対チームの構図が出来ることが、GSDyのこの先の一步に繋がるのではないだろうか。S語の出現

また、今回の新たな試みとして、1日目に簡単なワークショップを企画した。これは、正直いうと、日程の都合上空いてしまった時間を埋めるため、苦し紛れに出した案ではあったが、災い転じて福となす、予想以上の議論を生む結果となった。(ただ、「議論を生む」ことが、今回の見学会の大きな目的であったことは付け加えておきたい。)そ

のような議論を生んだ理由として、先ほどの岡田君が感想の中で触れた、リーダーの出現が大きいことと、もう一つ、個人間での問題意識を語る上での、共通の言語(勝手にGS語と命名)が皆に浸透していることが大きいと感じた。初対面の人であろうと、建築の人であろうと、土木の人であろうと、GSDyで顔を合わせればちゃんと議論が出来るようになっている。僕ら発足当初からGSDyに携わる人間としては考えられないことであり、理想とするところであった。(GSDWの苦闘を思い出して欲しい。)これは、大人方の活動の結果が大きいのであろうが、GSDyがどのような組織か、どのようなことを議論したいか、これまでの活動を通して発し続けてきたことが、このような共通の言語を生むことに繋がっていると思う。以上の結果として、以前よりも本質的な「議論」ができるようになってきていると感じた。一度、この共通の言語をまとめてみることも必要に思える。

社会人と学生

1日目の懇親会での一幕。縦に並んだ座卓の一番奥で面白い面々が顔を突き合わせて議論していた。それは、社会人組みである上田氏、宮下氏、そして高知工科大4年の矢野川、宮地組である。最初は矢野川、宮路の進路相談を社会人組みが受けていたのだが、途中から、「景観という言葉を使わずに景観を語る」「景観が出来ますというのは何もできないのと同じだ」と、かなり深い話へと転じていった。ここで言いたいのは、話の内容というより、その社会人対学生という構図のことである。GSDyの大きな特徴として、社会人と学生によってメンバー構成されていることがあるが、これまで、この特徴を生かしてきれていなかった。だが、今回のこの光景を見て、社会人と学生が顔を突き合わせて議論することが、学生にとってはもちろんのこと、社会人にとっても成長のきっかけになるのではないかと実感した。(社会人の感想は上田氏、宮下氏にお聞きしたい。)これは、生き生きと、伸び伸びと議論する、そのときの学生組みの顔と、それに必死に答えようとする社会人組みの顔を見ていただければお分かり頂けると思う。(不覚にも写真を撮り忘れていた。だれか撮ってないかな・・・)これまで、社会人と学生の共存みたいな話に腐心していたこともあったが、今後、社会人が増えるにあたり、このような風景がGSDyの特徴的な風景として企画ごとに現れると確信している。今回お急がしい中時間を割いて参加頂いた社会人の面々には、心から感謝申し上げたい。



最後に

今回の見学会も大成功に終わった。その理由は、企画者である村木君、大谷さん、手島さんが周到に計画を練ってくれたことが大きいのは勿論だが、境川から始まった多くの企画者が、これまで完成度の高い見学会やシンポジウムを企画してくれたことが積み重なり、今回の成功に繋がったと考えている。毎回、毎回企画のレベルが上がってきていると感じるのもこの理由だろう。

いつも思うことだが、企画者は本当に大変だ。スケジュール管理、大人の方への依頼、お金の管理・・・どれも気を抜けない作業である。企画者は自分の時間の多くを削り、その企画に注ぎ込んでいる。だけど、毎回このように素晴らしい企画者が手を上げてくれることは、参加者として感じてくれたことが次回の企画を立てるきっかけと意欲に繋がっているからだろうと思う。何でもそうだが、きっかけを作ることが一番難しい。そういった意味で、最初の企画者である井上氏の功績は大きい。その井上氏が、境川見学会の数日後、集合写真を見ながらこう言っていた。「みんな笑顔だね。大変だったけど企画してよかったよ。」その集合写真には笑顔の参加者が並んでいた。その後企画ごとに集合写真を撮ることが慣わしとなっているが、今回それらを見直してみた。どれも笑顔が並んでいる。その笑顔が企画者を讃え、次なる企画の意欲へと繋がるのだらうと感じる。今回の集合写真はまだ見ていないのだが、きっとそこにも笑顔があり、その中から次なる企画が生まれることを期待して筆を置かせていただく。

最後に、繰り返しとなるが企画者である村木君、手島さん、大谷さんには心から御礼申し上げたい。並びに、忙しい中、我々のために多くの時間を割いて頂いた川村氏、小野寺氏にはなんと御礼申し上げてよいか分からないくらい感謝の気持ちで一杯である。これは、今後のGSDyの活動を通して恩返しできれば良いと考えている。



今回の見学会に来ていただいた皆さま、ありがとうございます。私としては初めての企画者という立場で、至らぬところも多々あったと思いますが、無事終えることが出来て嬉しく思っています。今回の見学会は私の地元である三重で行われ、皆さんに三重の良さを知っていただいたこと、また、私自身も三重の良さを再発見できたことに喜びを感じています。実際のところ、企画者だとか言いながら、ほとんどの仕事を村木さんと手島さんにお任せしてしまい、申し訳ない気持ち心がどこに残っています。

皆さまからのアンケート結果を読ませていただきました。個々の熱い思いや三重に対する感想など、しっかりと胸に刻んでおきます。やはりこれだけ大勢だと感じることも多種多様で、私としては、あの時あしおけばよかったかなと思うことを吹き飛ばしてくれたり、あの時頑張っておいてよかったなと思ったり、逆に考えもしなかったことを書いてくれたりと、学ぶことが多いです。今回初めてGSDyの企画に参加した方や、初期からのメンバーの方、まだ入会していない方、全国各地からはるばるやってきた方など、それぞれのバックグラウンドは異なっているにもかかわらず、ほとんどの方が「良かった」という感想を書いてくださり、また新たな課題も発見して下さって、私のこの文章力のなさを悔やむくらい感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。三重で得たものを周囲の皆さまにも伝えていただけると幸いです。

一参加者としての感想ですが、今回は20年近く住んでいた三重が対象地であり、伊勢神宮には何度行ったのか数え切れないし、海の博物館も今回の見学会が3回目、正直じっくり見たいのは住吉の入り江くらいかなと思っていました。しかし、このメンバーで行く伊勢神宮の心地よさ、五十鈴川の景色、ホテルでの白熱したディスカッション、大いに騒いだ懇親会、線香花火、寄り道した川、朝食の人の少なさ、海風の心地いいプロムナード、非公開の収蔵庫まで案内していただいた海の博物館、和やかムードの住吉の入り江、何度行っても住みたくなる六華苑、移動時間の熱い話らい、お金と格闘していた懇親会。どの場面も素晴らしい思い出となりました。一人旅や友達との旅では絶

苑、移動時間の熱い話らい、お金と格闘していた懇親会。どの場面も素晴らしい思い出となりました。一人旅や友達との旅では絶対に味わえない満足感でいっぱいです。個人的な話になってしましますが、今回は同じ三重人代表である福角さんと、電車の中で話したり赤福氷を食べたりと、多くの時間をすごしました。ご存知の方もいると思いますが、同じ高校の同じ学年なのに当時は親しい間柄ではなく、それにもかかわらず、もうすっかり意気投合しております。これも三重人の気質なのでしょうか（いや…偶然おてんば同士だったからかも知れません…）。三重弁を皆さまに伝授すればよかったと、今さらながら思っています。三三三万歳！

今回の見学会で、企画者として、また参加者として得られたもの、学んだこと、今後生かしたいと思ったことなど、全てをこれからの人生につなげていけたら、と思っています。実は参加者の中では最年少であり、他分野の方からも教えていただいたことも多くありました。GSDyに入っていなかったら、こんなに多くのことを学ぶことは出来なかったと思います。来年4月から、大学院進学のため名古屋を離れ、関東組の一員となる予定です。名古屋から見たGSDyと関東組としてのGSDy。どのように関わっていけるかは未知ではありますが、建築構造を学ぶ者として、また地方代表として、今まで以上に積極的に参加していきたいと思っています。これからもよろしくお願



6月30日の朝駅のエスカレーターを上ってから、7月1日の夜に興奮さめやまぬまま家路につくその時まで、気の休まることのない嵐が過ぎ去っていくかのような時間でした。しかしその中での一つ一つの出来事が、私を成長させてくれたのだと思返されます。

これまでGSDyで企画された見学会に行ったこともなく、何かを企画することもほとんど初体験であった私にとって、この見学会の企画は不安でもあり、興味深いものでもありました。さらに今回はGSDy初の地方発案の企画であり、これまでの企画の流れがないことがこれほどまでに重要な意味を持ち大変であるということが、企画を進めていくうちにだんだんと実感されていきました。ほんとうに手探り状態でした。そんな中で目標を失わずに見学会当日まで頑張れたのは、いろいろと指摘し引っ張ってくれた村木さん、なにかと相談しあった大谷さんの支えもあったからだと思います。

この企画では、隠れた裏の目標でもある「今後の地方発案企画のための流れを作る」ということ、さらにGSDy自身の自発的な組織であるという意味を考え、生かしていくことが最大のテーマでした。しかしそれは、私にとってははじめから意識出来ていたものではなく、当日になってようやくその意味がわかったような気がします。実際気にかけていたのは、参加者に楽しんでもらうこと、学んでもらうこと、ディスカッションしてもらおうこと、知り合いの輪を広げてもらうこと、GSDyを感じてもらおうこと…一方的な企画になってしまっていたような気がしました。また、団体での行動には時間がかかったり、どうしても時間があまりとれなかった見学会などもありました。しかしそこは自発的団体のいいところ、みなさん自ら話し合い、行動をしていて、すごくGSDyならではの見学会を実感できました。それでも慣れない私はなかなか思うように行動できず、当日中村さんや岡田さん、永山さんにもとても助けられました。

あの2日間で得たものはとても大切なものだったのだと思います。うまく言葉にできず、まだまだ書ききれませんが、いろんな思いを抱えて来てくださったみ

あの2日間で得たものはとても大切なものだったのだと思います。うまく言葉にできず、まだまだ書ききれませんが、いろんな思いを抱えて来てくださったみなさんとお話や笑顔に助けられたことは間違いありません。お互いに有意義な時間を過ごせたこと、そしてそれ以上に、地方でやる見学会の良さ、GSDyで現地をしっかりと自分の足で歩く良さを感じてもらえたことがなによりうれしい収穫です。これからも、GSDyの特徴である「景観」というキーワードで集まった全国の様々な分野の人たちの組織であることを生かした、たくさんのおもしろい企画がこの見学会を機に発案されていくことを期待しています。

最後ではありますが、普段では聞くことの出来ない設計の苦労話や実際の建物の細かい説明などの興味深いお話を聞かせて下さった海の博物館での川村さん、設計に至った経緯や周辺の話、設計から施工までのいろいろな葛藤やおもしろ話、地元の飲み屋の話までざっくばらんに話して下さいました。私にとって忘れられない場所となると思います。本当にありがとうございます。





GSDy「鳥羽・伊勢・桑名 見学会」を通じて

小野寺康（小野寺康都市設計事務所・代表）

昨年の境川に続いての企画、しかも今年は泊りがけで近畿へ行くという今回のGSDyの見学会は、私が学生のときにあれば是非にも行きたい魅力的なものに思えました。例によって企画書はよく練られており、企画幹事の村木正幸君の熱意が気持ちよかったです。案内の依頼を受けた際も二つ返事だったはずですが。

しかし、実のところをいうと少し気が重かった。

こんなことを書くとも村木君らはショックかもしれませんが、事実はそうでした。

伊勢神宮と「海の博物館」を見た後に住吉入江を見るのか。うむ勘弁してくれ……。

もちろん、「桑名・住吉入江」は、土木学会デザイン賞も受賞した私の代表作で、GSDyが見に行きたいといってくれたのはとても嬉しく光栄なことでした。

嬉しかった。でも実をいえば、そう、気が重かったのです。

その理由は、現場を見れば明らかです。

実のところ住吉入江は、設計者が意図していたほどにはあまり使われていない。管理も良くない。だから舗装に雑草が生え、錆鉄が錆びている。周辺の街並みに波及効果が見えていない。設計意図とは異なる造形が、私の知らないところで勝手にできている（空き地のような「ポケット広場」とか、排水機のコンクリートボックスの中途半端な煉瓦積み等）。

デザインのプロセスは現場で少し説明しましたね。施工途中での設計変更、鋳物組合との協働と当惑、終盤での桑名市との軋轢……。そういった「創り手」側の葛藤がどこか風景の表層に漂い顕れている——そんな風に思わずにいられない。造形は創り手の意思を思いのほか運んでしまうものだから。

私が関与しなかった「外堀通り」は、風景としてさらに辛い。

八間通りと寺町商店街が交差する場所にできた街角広場は、篠原修先生と私で、桑名市が進めていた計画に対して、無償でカウンターデザインを提示したが、結局ほぼ無視された形で終わった。そこから連なる外堀通りは、南雲さんがずいぶんと苦勞をして付き合ったにも関わらず、結局ディテールは破綻し、あげくには橋の側面に（落書き同様と私は思っているが）地元の絵描きによって彩画されてしまった。

桑名のこの一連の水辺デザインは、あまり祝福されたものとはいえないのが実情です。もちろん関与しなければ、住吉入江は今頃、石積み模様の化粧コンクリート護岸に既製品のアルミ防護柵が並ぶという、そんな代物に終わったわけで、それに比すれば格段に社会資産たるレベルに達したという自負はある。だがやはり、私は設計者として胸を張って見て欲しいといえない気分がありました。しかも、「海の博物館」を見た、そのすぐ後に見てもらいたいものではない……。

しかし、だからといって案内を断るべきではないということも承知していました。

むしろそういう軋轢や葛藤も現場で全部伝えよう。それを生々しく体験することが、おそらくこれから社会に出ようとしている学生諸子には意義あることになるだろう。そのことは確信していた。だからここは出向いて行かざるを得まい、そんな思いでした。このレポートを読むに、やはり私は行くべきだったし、その責任を果たせたかなと思いました。各人それぞれに深く考え、感じ、また真摯に正確に住吉入江で行われたデザインの「生業」に対峙してくれたということを知りました。

このレポートで少し、私は救われた。

そのことについて私は、村木君ら企画幹事の諸君、そして参加されたGSDyの皆さんに敬意と感謝の意を表したいと思います。

また機会があればお付き合いします。

でも、今度はさすがにいい気持ちで案内したいものです。本当に、心から、そう思います。

GSDyのイベントに名古屋から行く度に、集まった仲間の意気込みに刺激をもらいつつも、少なからず不安な気持ちがありました。それは当時、GSDyという組織が、ほんの一握りの人のパワーによって牽引されているイメージがあったからです。GSDyという環境を自ら作っている者と、作られた環境に従っている者。不安の念を抱いたのは、これから景観という未開の分野を切り開こうと集まった組織にしては、少し受動的な雰囲気か漂っていたからなのかもしれません。

「弱いものが集まってコラボレーションにはならない。強い者が集まってこそコラボレーションになる」という内藤先生の言葉が示す強い者に僕達はなりえていたのか。「見学会があるから参加する」ではなく、「自ら見学を企画する」、「ワークショップや課題があるから設計をする」ではなく「自ら仲間を誘って設計をする」そんな者たちの集合にGSDyがなければいいという思いがありました。遠い地方の普通のメンバーが見学会を企画することで、組織としての主体的な活動が日本全体に広がっていくきっかけとなることを意図して、今回僕は企画を引き受けました。

見学会では、「各自の主体性に委ねる」ことをコンセプトにしました。全体を引率し、全体に説明をした方が企画側としては楽ではありました。また、見学会の質を各自に委ねることに大きな不安はありました。しかし、参加者にとって受身な見学会はGSDyにふさわしくないといい、最低限の案内書を渡す以外は参加者各自の主体性に任せることにしたのです。聞きたいことは同伴のゲストの方に自ら質問し、気になるところは走って見に行つてこそGSDyの見学会といえる気がしたのです。

この見学会の後、GSDyでは秋に箱根の見学会が実施され、年明けには即日設計のイベントが企画されています。組織が主体的な参加者の集合体として、いよいよ出来上がりがつつあるように思います。今回の見学会が、そのきっかけの一端を担うことができているのなら、企画者としてこれ以上の喜びはありません。

見学会を無事に終えることができましたのも、参加者の皆様の協力があったのことでと思っています。ありがとうございました。最後に、ご多忙の中、川村氏、小野寺氏には見学会に御同行して頂きました。

ここに記すにあたり、感謝の意と代えさせていただきます。

企画代表 村木 正幸

2007年 盛夏



4 会計報告

memo

収入	金額/人	金額
(1) 見学会会費支出のうち(3)、(4)を対象)	¥ 11,000	¥209,000
(2) 非会員見学会費		
米澤、松崎	¥ 16,900	¥ 33,800
高瀬	¥ 580	¥ 580
(3) GSDy援助(支出のうち(1)、(2)、(5)、(6)、(7)を対象)		¥ 261,419
収入合計		¥ 504,799

支出	金額/人	金額
(1) 交通費		
名古屋→伊勢市 (JR)	¥ 1,200	¥ 24,000
外宮→内宮 (バス)	¥ 410	¥ 8,610
内宮→伊勢シティホテル (バス)	¥ 410	¥ 8,610
伊勢市→鳥羽 (JR)	¥ 230	¥ 4,600
鳥羽→海の博物館 (全体) (バス)	¥ 580	¥ 11,020
鳥羽→海の博物館 (村木、手島) (タクシー)	—	¥ 4,230
海の博物館→鳥羽 (タクシー)	—	¥ 25,220
鳥羽→桑名 (JR)	¥ 1,040	¥ 29,540
桑名→名古屋 (JR)	¥ 330	¥ 6,930
(2) 施設入場料		
海の博物館 (団体割引)	¥ 720	¥ 15,840
六華苑 (団体割引)	¥ 250	¥ 5,750
(3) ホテル宿泊代	¥ 6,859	¥ 144,039
(4) 懇親会費	¥ 4,000	¥ 84,000
(5) その他		
会議室代		¥ 13,650
ホテルでの飲み代費		¥ 8,339
(6) 謝礼金		
川村さん		¥ 45,000
小野寺さん		¥ 42,000
(7) 交通費援助※1		
名古屋→東京		¥ 20,210
支出合計		¥ 501,588

残金※2	¥ 3,211
------	---------

※1 企画段階での東京打ち合わせ時の交通費(¥40,420)の内、半額が支給された。

※2 残金は事後報告書の郵送費用などに割り当てる。

LANDSCAPE DESIGN

youth